

研究テーマ：人口が平成以降、3 倍に増えた村の子育て支援について

民生文教

常任委員会

●富山県舟橋村について

舟橋村の面積は3・47キロ平方メートルで、全国に約1700ある自治体の中でも最も小さい自治体である。水に恵まれ、地形は全域が平地となっている。また、村内の中央を走る富山地方鉄道により、富山市中心部へ約15分でアクセスすることができなどの地理的条件にも恵まれている。平成に入ってから人口増施策を実施してきた結果、人口が倍増するなど、近年では富山市のベッドタウンとして活気あふれる村となっている。

●人口増と将来像

【人口増の要因】

- 市街化調整区域の除外
- 昭和45年 富山・高岡広域都市計画に編入され、村内全域が市街化調整区域となった。
- 計画の見直しにおいて村が除外、市街化区域への組み入れは実現

せず。

・当時の村長が各所に働きかけ、昭和63年に村全域を富山・高岡広域都市計画区域からの除外が答申され、立山町都市計画区域に組み入れられた。

●子育て支援への取組

(1)「子育て支援センター」ぶらんこ

ぶらんこにある子育てメイト「さくらんぼくらぶ」は、子育て親子の居場所づくりに15年間取り組んでいるボランティア団体で、さくらんぼくらぶの活動に、100%の下準備をしない。70%80%の準備で迎え、20%30%の不足分は、利用者に関わってもらい「利用者をお客さんで終わらせない」団体である。

(2) 圖むすびプロジェクト

「子育て支援センター」ぶらんこがこの村にあるからここに住みた

総務経済

常任委員会

安心安全な公共施設の在り方

「公共施設の長寿命化について」

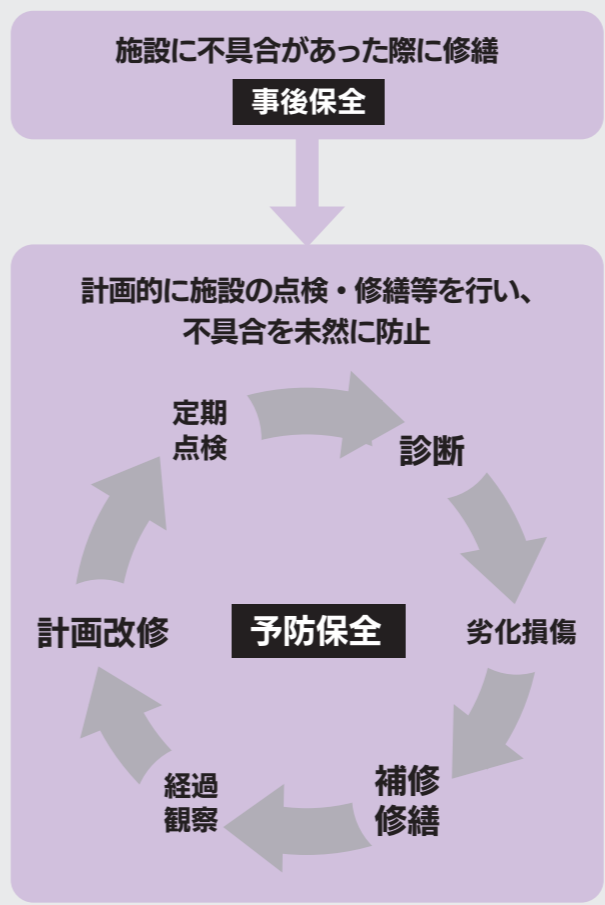
委員長 小林一幸 副委員長 松本幸喜 委員 笠原則孝・三友美恵子・高橋茂樹・新井賢次

●「事後保全」から「予防保全」へ

施設をできる限り長く使うために適切な維持管理を行っていくため、従来のように老朽化による劣化・破損等の大規模な不具合が生じた後に修繕等を行う「事後保全」型の管理から、計画的に施設の点

検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理へと転換を図っている。

「予防保全」を行うことにより、突発的な事故や費用発生を減少させることができ、施設の不具合による被害のリスクを緩和すること



や改修・日常的な維持管理の費用を平準化し、中長期的なトータルコストを下げる事が可能となる。

●改修周期の設定

建築物は経年劣化とともに、耐震性能や省エネ性能等の社会的要

●維持・更新コストの平準化

大規模改修の時期を迎える建築物が多く、令和12年度までのコストが多くなる見込みで、維持・更新コストの目安を年間2億円と設定、各建築物の整備方針及び実施計画を策定し、長寿命化整備の維持・更新コストの平準化を図って

いく。

財源については、国または県の補助金、本町の起債事業等を適切かつ効果的に活用し、維持更新コストに充当する財源の確保に取り組んでいく。

未来世代へ負担残さず

公共施設の長寿命化につ

いて、保全管理の方法転換を図っているが、目標耐用年数の設定を職員が設定していることや、長寿命化していくための修繕費用について積立などをしていない。公共施設の耐用年数設定について、建築士などの専門職により評価し設定していくことや、費用負担を後世に残すのではなく、しっかりと毎年度積み立てていくなどの準備を行うことで、耐震性及び財政面も考え検討していくことが望ましい。

人口増の秘訣とそれに応えた手づくりの子育て支援の取組

委員長 羽鳥光博 副委員長 堀越真由子 委員 月田均・備前島久仁子・浅見武志

い」「村の公園オレンジパークがあるからここに住みたい」といったプロジェクトが活動している。

(3) 子育て支援施策

特徴的な取組

- ①産前産後ヘルパー事業
妊婦、出産後24か月以内 回数30回まで1時間未満750円の家事育児の補助
- ②おむつ券配布
12枚（1枚2000円）配布。出生から1歳まで保健師の訪問時に配布（見守り活動） 他
- ③5歳児健診
県内で初実施して現在まで

舟橋村に学ぶ子育て

今回、子育て支援の取組

8年の歳月をかけて全村を市街化調整区域から除外し、人口増の



富山県
舟橋村 HP



舟橋村の事例を通して子育て支援を考える